

# 御遷座百五十年 「式年大祭」の齋行に向けて

令和七年、射水神社は高岡城本丸跡に御遷座されて百五十年の節目を迎えます。これまでも十年毎の式年大祭で、厳粛かつ盛大に祭典を斎行し、神代以来の地に鎮座される元宮・二上射水神社並びに撰末社として二上山に鎮まる神々との御神縁を繋ぐ御神幸をはじめ、稚児社参・奉納舞台等の数々の神賑行事、また記念事業として社頭整備を執り行って参りました。

先の百四十年祭からの十年、昨今は御朱印ブームもあり、若い世代の参拝も目立つようになると、射水神社では更に一人でも多くの人にお参りいただけるよう四季折々の祭儀や教化企画を新たに立案、またSNSの広報媒体も最大限に活用することで、全国から参拝者が訪れるようになりました。

そして、平成二十七年に鎮座地である高岡古城公園は国史跡「高岡城跡」として指定され、さらには令和御改元により、あらためて『万葉集』が注目されるなど、お膝元である我が街・高岡も歴史資産を活かした新たな文化や魅力の創造のために力強く歩みを進めています。

旧社地である二上山麓に鎮座される二上射水神社へ神輿が渡御する「御神幸」が初めて行われたのは、高岡大火の二年後、明治三十五年十月のことです。

類焼した社殿の再建を見事に果たした当時の保科保宮司が小倉久富山県知事に宛てた文書には「本社と氏子との間、自ずから疎隔の姿に相成り、遺憾に堪えず」とあり、続けて「旧社地へ神幸相成り候わば、氏子も歓迎し奉り、大いに神慮に叶い、永く神人一和の基を啓き」と見え、越中総鎮守として広く富山県民に尊崇される御祭神「二上神」と地域の人々が御神幸によって心通わせることが、さらなる御神威の発揚となり、地域の安寧と国家の繁栄を祈る大切な祭事であると記されています。

このたびの式年大祭齋行にあたり、本殿以下諸殿舎の銅板葺き屋根廻りについては、永い年月に亘って直射日光と雨雪に晒されて、損傷や経年劣化が進んでおり、半世紀近く大規模な修繕が行われていないことから、速やかな修復が急務となっています。

御祭神・二上神がお鎮まりになられる社殿が輝きを取り戻すことで、御神威の更新を仰ぎ、より一層の御神徳をいただく意義深い大祭と致します。

来たる御遷座百五十年祭は、本社と元宮・二上射水神社が今一度、悠久の歴史を共有し、より緊密な連携を深めつつ、『万葉集』に詠まれる「貴き皇神」の鎮まられた神体山として両社詣でを推進する等、御神徳のさらなる発揚と地域の発展に努めるための好機として捉え、また向後の射水神社が進み行くべき方向性を定める契機ともなればと考えます。

なお、御神幸の儀は、新調した「御鳳輦」に御霊代をお遷し申し上げ、両社和衷協同、「神人一和」の心にて執り行い、未来の二百年祭、三百年祭をも見据えて厳粛且つ盛大に斎行すべく、準備を進めております。

そして、御神威のもと、「歴史と伝統の都市・高岡」の礎を築かれた越中国司で万葉歌人の大伴家持卿、また、加賀藩初代藩主高岡城主前田利長公に親しみと敬愛を持ち、さらには高岡の町の発展に尽くされた多くの先人たちに思いを馳せ、高岡の活性と富山県下一円の飛翔・飛躍への一助ともなるべく、感謝の祈りを捧げる式年大祭と致します。

越中総鎮守一宮射水神社宮司 炭谷淳  
射水神社式年大祭奉賛会会長 菅野克志

令和七年の式年大祭は、約五十年ぶりの御社殿屋根の葺き替えに伴う四月の「本殿遷座祭」と、十年に一度の九月の「御神幸」の厳修に努めて、大神様の御力をいただくお祭りです。



三月

二十日(木・春分の日)～四月十三日(日)

### 玉石持ち行事

「玉石」は、本殿周りの敷地に置かれる清らかな石です。お屋根の葺き替え完了後に新しい玉石を敷き詰めます。



四月

二十二日(火)

### 本殿遷座祭「令和六年九月仮殿遷座祭」

二十三日(水)

### 例祭並びに奉祝祭

九月

十三日(土)

### 神賑奉納行事(稚児社参等)

十四日(日)

### 御神幸「第一日」

十五日(月・敬老の日)

### 御神幸「第二日」

十六日(火)

### 式年大祭



## ご奉賛のお申込み方法について【裏面「記念事業の概要」もご参照ください】

- 一、ご奉賛のお申込みは、**別紙「申込書」**に芳名・ご住所・ご連絡先などと共に、祈り・願いごとを書き、神社事務所にご持参、またはご郵送ください。
- 二、「申込書」の本紙は、御神前への奉告と共に、令和七年九月の「御神幸」の際に御鳳輦に積載し、成就祈念を致します。
- 三、ご送金は、各銀行振込・ゆうちょ銀行振替口座、または現金書留をご利用ください。
- 四、ご奉賛金は分納していただくことも可能です。「申込書」内の□分割奉納に「✓」を付けてください。  
なお、分納は令和七年五月までをお願い申し上げます。
- 五、芳名を殿内または境内に掲額・掲載させていただきます。  
お名前の公表を希望されない場合は、恐れ入りますが「申込書」内の□匿名に「✓」を付けてください。
- 六、皆様方の個人情報につきましては、射水神社関連以外では使用致しません。

## 記念事業の概要

- ◎目標募財金額 伍千萬円
- ◎神社拠出金 壹億円
- ◎募財期間 令和7年5月まで
- ◎振込先 [口座名/越中総鎮守射水神社 代表役員 炭谷 淳]
  - ・高岡信用金庫 本店営業部 普通0903007
  - ・北陸銀行 高岡支店 普通6096923
  - ・高岡市農業協同組合 本店 普通0051751
  - ・富山銀行 本店営業部 普通3067918
  - ・富山第一銀行 高岡支店 普通401491
  - ・ゆうちょ銀行 [口座名/射水神社] 00730-1-40253

### ◎奉賛金額に対する顕彰について

奉賛額	祭典御案内※	屋外芳名掲額 (二年間)	殿内芳名掲額 (十年間)	感謝状贈呈	特別記念品 贈呈	記念品贈呈
名誉奉賛 500万円以上	○	○	○	○	○	
特別功勞奉賛 300万円以上	○	○	○	○	○	
功勞奉賛 100万円以上	○	○	○	○	○	
特別有功奉賛 50万円以上	○	○	○	○	○	
有功奉賛 30万円以上	○	○	○	○	○	
特別奉賛 10万円以上	○	○	○	○		○
奉賛	5万円以上	○	○			○
	3万円以上	○	○			○
	1万円以上	○	○			○

※祭典御案内は「遷座祭」「奉祝祭」「式年大祭」「神賑奉納行事」等の別がございます。

越中総鎮守一宮



# 射水神社

射水神社式年大祭奉賛会 事務局

〒933-0044 富山県高岡市古城 1-1

社務所 0766-22-3104  
 参集殿 0766-22-0808  
 F A X 0766-21-3715



公式HP



@imizujinja

## 記念事業

御遷座百五十年の節目にあたり、左記の事業を実施致します。

### 一、本殿以下御社殿の銅板屋根の葺き替え修復工事

永い年月に亘って直射日光と雨雪に晒された御社殿のお屋根には、損傷や経年劣化が確認でき、本殿・祝詞殿・中門・外拝殿・翼廊は速やかな修復が必要となっています。

御祭神・二上神が鎮まる神殿が輝きを取り戻すことで、御神威の更新を仰ぎ、より一層の御神徳をいただく大祭と致します。なお、令和七年四月には全ての修繕が終わり、本殿遷座祭を斎行致します。

また、現在の社殿は高岡大火の二年後、明治三十五年に再建された建物です。富山県下で最高位の国幣中社であった当神社の復興には、当時、東京帝国大学教授と内務省社寺局の技師を兼務し、全国の社寺建築に携わっていた伊東忠太博士が設計を担当、県出身で名門宮大工の家系を受け継ぐ松井家の棟梁・松井角平氏が指名され、伊東博士の指示に忠実に応えた松井棟梁らにより神聖にして莊嚴で精緻な社殿の造営は完遂しました。

銅板屋根の葺き替え工事と共に、明治時代の御社殿復元事業として、今日、床が張られた祝詞殿を旧来通りの土間石張りの社殿へと部分改修を行い、貴重な建物の維持保存と、更なる尊嚴護持を図ります。



本殿



手前から祝詞殿・中門・外拝殿



石張りの「祝詞殿」(昭和50年代)

### 一、「御鳳輦」新造

瑞兆鳥であり、「高岡」の地名にも直接的に由来する「鳳凰」を屋根にいただく「鳳輦」は、古来、天子が行幸に際して乗御された由緒正しき乗物で、神輿の原型ともされます。

### 一、神苑整備事業

高岡城本丸跡に鎮座する神社として、古城公園の四季の美しさと共に、国指定史跡「高岡城跡」の魅力伝えるガイダンスエリアとしての機能をもち「神苑」と位置付け、広くご参拝・ご来園者

# 神人 一和

令和七年、明治の御遷座より  
百五十年を迎えます

越中総鎮守一宮 **射水神社**  
御遷座百五十年 式年大祭 **ご奉賛のお願い**

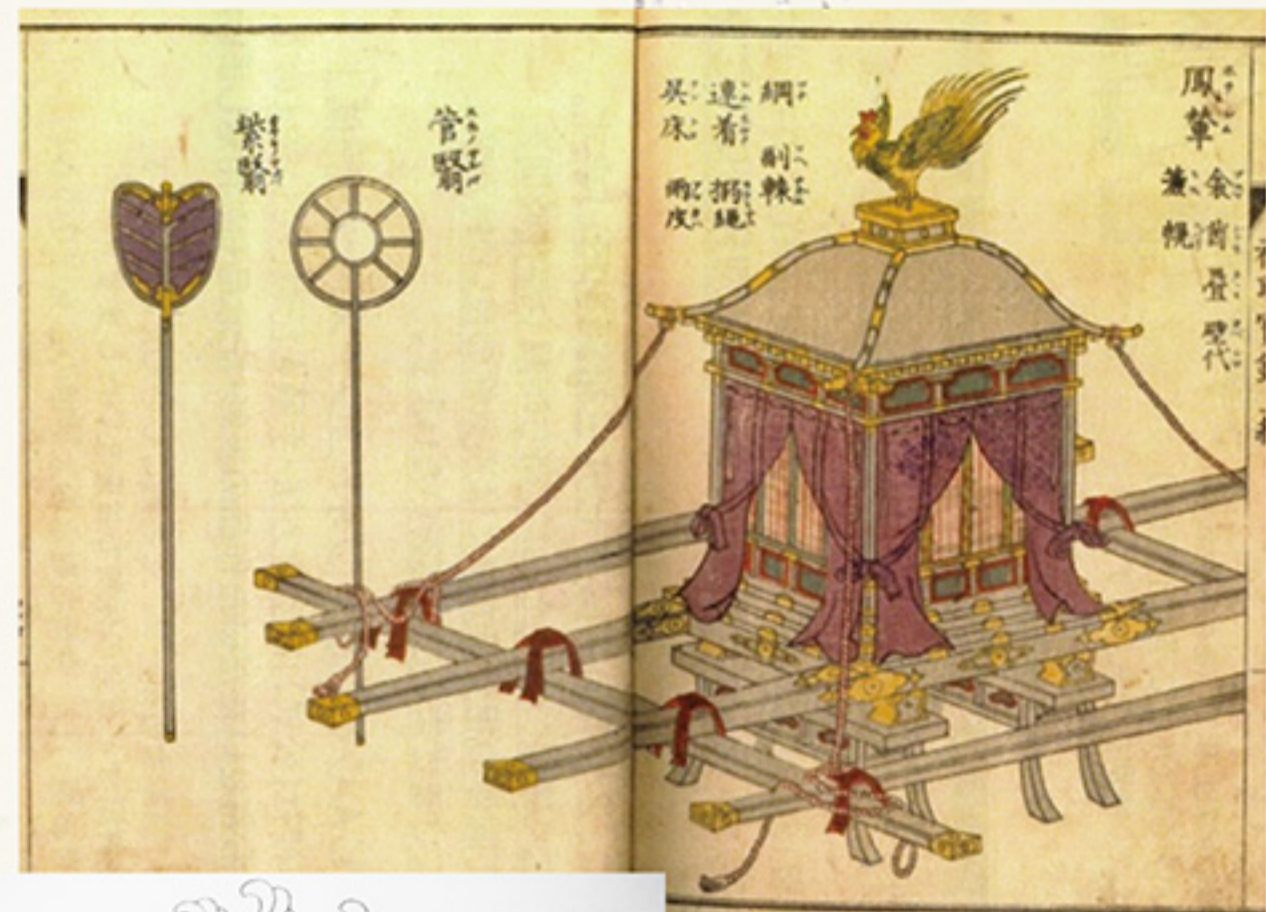
## 一、「倭舞」の調査研究

明治の御遷座に併せ、春日大社より相伝された  
歌舞について調査研究を行います。

## 一、記念誌の発刊

神社の歩みを、今昔の写真と共に記します。  
悠久の歴史を紡ぎ、次代へと確実に継承する為、  
神事の更なる考証と共に、四季の祭事を展開する  
中で、幅広い世代の方々にとってお参りのし易い  
環境を整備して行きます。

## 一、教化活動の展開と整備



鳳輦(「神職宝鑑」半井真澄著  
明治32年3月刊より)



「鳳凰」原寸図面より

### 「越中国高岡国幣中社射水神社ノ図」

現在の鎮座地である高岡古城公園(当時、高岡公園)本丸跡に  
遷座された直後の大拝殿。



国指定史跡「高岡城跡」全景



本丸と二の丸を結ぶ「土橋」の石垣



高岡城跡発掘調査で境内地より  
検出した遺構 (H24.7.27)

このたびの式年大祭の御神幸がより意義深く、  
盛儀となるよう新造、毎年、の神賑行事で県民参加  
のお祭りにも使用致します。

をはじめ、地域の方々に提供し、末永く愛され、  
親しまれる「古御城・射水神社」を目指します。